

令和元年6月27日現在

機関番号：32702

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2018

課題番号：15K13148

研究課題名（和文）慢性抑うつと心理療法のシアター＆スポットライト仮説の研究

研究課題名（英文）Studies about the theater & spotlight hypothesis of chronic depression and psychotherapy

研究代表者

杉山 崇（SUGIYAMA, TAKASHI）

神奈川大学・人間科学部・教授

研究者番号：40350821

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：シアター＆スポットライト仮説は心理療法を統合するための理論モデルである。このモデルは認知科学、認知神経科学に基づいて構成されている。研究代表者は、この仮説を理論モデルとして確立するために、包括的な理論研究と次の研究で活用するツールの作成を含めた実証研究を企画した。残念なことに、企画の一部は研究資源の関係で実施できなかった。しかし、企画の一部を見直して新たに立て直すことで、概ね予定していた成果は達成できた。本研究の成果を元に、シアター＆スポットライト仮説に基づいたアセスメントツールの原案も策定でき、次の科研費応募にもつながっている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

心理療法は様々な方法論（学派）が提案され、実施されているが、学派ごとに用語も人間観も、理論体系も異なるため、統合的に活用することが困難な状況が続いていた。そこで、研究代表者は本研究課題の理論モデルを提案し、すでに確立された認知科学、認知神経科学に基づいて、心理療法統合のためのモジュールを提案した。このモジュールを理論的に確立し、効果が見込める統合的な心理療法と心と暮らしを整える心理支援サービスを人類に提供することが最終的な目標である。人類全般の福祉を心理科学的に支える研究として社会的意義は高いと言える。

研究成果の概要（英文）：The Theater & Spotlight Hypothesis is a theoretical model for integrating psychotherapy. This model is based on cognitive science and cognitive neuroscience. In order to establish this hypothesis as a theoretical model, the research leader planned an empirical study including comprehensive theoretical research and creation of tools to be used in the next research. Unfortunately, part of the project could not be implemented. Because, as a result, research resources have run short. However, by partially reviewing the project and rebuilding it, the planned results were achieved. Based on the results of this research, a draft of an assessment tool based on the theater and spotlight hypothesis can also be formulated, leading to the next application for Grant-in-Aid for Scientific Research.

研究分野：臨床心理学、社会心理学、認知心理学

キーワード：慢性抑うつ シアター＆スポットライト仮説 心理療法の統合

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

心理療法の各学派が独自の用語で独自の理論を展開する中で、対象者(ユーザー、受益者)への合理的提供に向けて学派を超えた議論が進みにくい状況にある。また、独自の理論は必ずしも科学的な背景を持たない場合もある。

一方で、心理療法はそのほとんどが「思い通りにならない心(行動)」、すなわち「意識」と「無意識」のギャップを扱っている(杉山, 2013)。よって、「意識」と「無意識」の仕組みを解き明かす科学的モデルを構築すれば、様々な学派の心理療法を接続する「ハブ」となれる可能性がある。同じ用語、同じ理論で各心理療法の意義を整理することで、心理療法を統合し対象者への合理的提供に向けた議論が可能になると考えられる。

2. 研究の目的

本研究では、認知科学と認知神経科学がそれぞれに見出した理論の接合を図ることで、神経基盤を考慮した「心の仕組み」の理論を提供することを目指す。次にその理論で各心理療法を再定義する。その上で統合的な心理療法や心理支援法を開発し提供することを目指す。この仮説モデルに沿ったアセスメントツールを開発するための基礎研究を行う。

3. 研究の方法

- ・理論的研究を重ねて仮説モデル、シアター&スポットライト仮説を構築する。
- ・各心理療法の実務者、心理学研究者と学術集会で議論を重ね、仮説を検討する。
- ・この仮説モデルを活用して支援した事例を通して、仮説を検討する。
- ・アセスメントツール作成に向けた、基礎的なツールの開発を行う。

4. 研究成果

シアター&スポットライト仮説を心理療法を統合するための理論モデルとして概ね確立できた。このモデルは認知科学、認知神経科学に基づいて構成されている。研究代表者は、この仮説を理論モデルとして確立するために、包括的な理論研究と次の研究で活用するツールの作成を含めた実証研究を企画した。残念なことに、企画の一部は研究資源の関係で実施できなかった。しかし、企画の一部を見直して新たに立て直すことで、概ね予定していた成果は達成できた。本研究の成果を元に、シアター&スポットライト仮説に基づいたアセスメントツールの原案も策定でき、次の科研費応募にもつながっている。

心理療法は様々な方法論(学派)が提案され、実施されているが、学派ごとに用語も人間観も、理論体系も異なるため、統合的に活用することが困難な状況が続いていた。そこで、研究代表者は本研究課題の理論モデルを提案し、すでに確立された認知科学、認知神経科学に基づいて、心理療法統合のためのモジュールを提案した。このモジュールを理論的に確立し、効果が見込める統合的な心理療法と心と暮らしを整える心理支援サービスを人類に提供することが最終的な目標である。人類全般の福祉を心理科学的に支える研究として社会的意義は高いと言える。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 3 件)

1. 杉山崇 (2018) 心理相談研究 (9), 1-11, 心理学研究におけるパラノイア感・抑うつ感の定義と測定尺度の作成 - 被受容感・被拒絶感, 賞賛獲得欲求, 社会的スキル, 疲労感との関連の検討

2. 杉山崇・宮口まな (2018) 心理相談研究 (9), 12-21, 賞賛獲得欲求は社会的排斥リスクと自己実現のどちらに基づくのか?

3. 杉山崇・島袋綾音 (2018) 心理相談研究 (9), 22-31, 自閉性スペクトラム障害は社会性の障害と定義してよいのか?

[学会発表](計 16 件)

1. 杉山崇 心のリテラシー教育について メンタルケア学会(招待講演) 新宿 NS ビル 2018-10-13

2. 杉山崇・北村英哉・沓澤学・高史明 ネガティブなふと浮かぶ記憶・思考との付き合い方: 認知・社会・臨床 心理学からのアプローチ 日本心理学会 東北大学, 2018-09-24

3. 杉山崇・山蔦圭輔・塚原拓馬・米田英嗣・佐々木淳 「基礎と臨床をつなぐ」認知特性と抑うつに関する多面的アプローチ 日本心理学会 東北大学 2018-09-24

4. 杉山崇・野々垣みどり・伊藤正史・平木典子・Ceid Davies Linn キャリア支援者のコア・コンピテンシー 日本産業カウンセリング学会国際大会(招待講演) 亜細亜大学 2018-09-02

5. 杉山崇・米田英嗣・塚原拓馬・宮澤有里 抑うつへの多面的アプローチ - 発達障害と抑うつ、中年期の抑うつ 日本発達心理学会, 東北大学, 2018-03-24

6. 杉山崇・越智啓太・松本昇・山本哲也・丹藤克也 記憶心理学と臨床心理学のコラボレーション(7): 臨床的問題の記憶心理学的理解と介入 久留米シティプラザ 日本心理学会 2017-09-21 7 .

7. 塚原拓馬・杉山 崇・山蔦 圭輔 坂本 真士 基礎と臨床をつなぐ 抑うつに対する多面的アプローチ 日本心理学会 久留米シティプラザ 2017-09-20

8. 杉山崇・東齊彰・加藤敬 統合・折衷的心理療法の発展(3) - 脳科学・ニューロサイエンスとの関連を巡って - 日本心理臨床学会, 神戸国際会議場, 2015-09-20

他 8 件

〔図書〕(計 3 件)

杉山崇(2019) 事例でわかる、働く人へのカウンセリングと認知行動療法・対人関係療法 金子書房(197ページ)

杉山崇(2019) 心理学でわかる、発達障害グレーゾーンの子の保育 誠信書房 (170ページ)

杉山崇・越智啓太・丹藤克也(編)(2015) 記憶心理学と臨床心理学のコラボレーション 北大路書房(259ページ)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年:
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名: 雨宮 有里

ローマ字氏名: AMEMIYA, Yuri

所属研究機関名: 東洋大学

部局名: 現代社会総合研究所

職名: 客員研究員

研究者番号(8桁): 00625501

研究分担者氏名：五味 美奈子
ローマ字氏名：GOMI,Minako
所属研究機関名：青山学院女子短期大学
部局名：子ども学科
職名：講師
研究者番号（8桁）：20598669

研究分担者氏名：伊藤 美佳
ローマ字氏名：ITO,Mika
所属研究機関名：山梨大学
部局名：大学院総合研究部
職名：講師
研究者番号（8桁）：30402019

(2)研究協力者
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。